

# KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

本学学生の教職課程受講動機の一考察：  
「教師」からどのような影響を受けたか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2016-09-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 市川, 欣三 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	<a href="https://kansai.gaidai.repo.nii.ac.jp/records/5703">https://kansai.gaidai.repo.nii.ac.jp/records/5703</a>

## 本学学生の教職課程受講動機の一考察

——「教師」からどのような影響を受けたか——

市川 欣三

### はじめに

筆者が平成14年度「教育制度概論」<sup>1)</sup>受講者(中宮学舎)を対象にアンケート(標題:私の教わった先生)を実施し、本報告をまとめたのは次のような関心に基づくものである。筆者が本学で教職科目を担当して8年が経過したが、その間、教職課程受講者の「教職に関する意識調査」を2回実施し、結果の分析を行った<sup>2)</sup>。それに関連して、受講者の教職志望の動機のうち、小学校、中学校、高等学校で教わった教師から受けた影響について知りたいと考えていたので、今回はそれを明らかにしようとするものである。

### I 本調査のねらいと設問の設定理由

教職課程の受講動機にはさまざまなものが考えられるが、それらのうち、小学校、中学校、高等学校で教わった教師の影響がどの程度あるのかを知ることが、本調査の目的である。「教育は人なり」ということばのとおり、教育を成功させる最大の要因はよい教師を得ることにかかっていることは広く認められているが、ここでは生徒からみたよい教師の資質能力の具体的な中身はどのようなものを分析することを目指している。本調査は筆者が作成したアンケート用紙<sup>3)</sup>を、「教育制度概論」受講者に配布し、記入後、提出するように求めて実施した。

本調査では設問Ⅰ～Ⅵを設定した。設問Ⅰ～Ⅳは、受講者が「印象に残っている」あるいは「影響を受けた」と感じている教師を特定するために、その属性を明らかにするためのものであり、Ⅰではそのような教師がいたかどうか、Ⅱではその教師の性別、Ⅲではその教師に教わった学校種別、Ⅳではその教師と回答者との関係について問うた。設問Ⅴはそのような教師の「印象に残っている」あるいは「影響を受けた」資質能力の内容を問うものであり、本調査の

中心部分である。設問Ⅰ～設問Ⅴの回答数を集計することによって、数量的な傾向を知ることにはできるが、より具体的に教師の資質能力を把握するため、設問Ⅵとして設問Ⅴに回答した内容について自由に記述することを求めた。いわば、質的な側面の把握を目指すものである。

教師の資質能力を考察する際に手がかりとして引用される資料に、文部省の教育職員養成審議会の答申『新たな時代に向けた教員養成の改善方策について』（1997年7月・第1次答申）がある。同答申の「Ⅰの1 教員に求められる資質能力」では、いつの時代も教員に求められる資質能力、今後特に教員に求められる具体的資質能力、得意分野を持つ個性豊かな教員の必要性の3項目をあげ、いつの時代も教員に求められる資質能力として、「学校教育の担い手である教員の活動は、人間の心身の発達に関わるものであり、幼児・児童・生徒の人格形成に大きな影響を及ぼすものである。このような専門職としての教員の職責にかんがみ、教員については、教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、そしてこれらを基盤として実践的指導力が必要である」（下線筆者）と述べている。なお、この文章はすでに1987（昭和62）年答申に述べられていたものである。下線部分に示された教員の資質能力は、教師の人間性の側面と教職の専門性の側面に大別できると考えられる。筆者もこれを参考にし、設問Ⅴの（1）～（7）の項目を設けた。（1）、（2）は教科指導の専門性の側面、（3）、（4）は教科外指導の専門性の側面、（5）、（6）は教師の人間性に関する側面について問うものである。念のため、（7）その他、も設定した。設問Ⅴは○を二つまでつけてもよいとしたが、その理由は、回答者が専門性あるいは人間性のどちらか一方の側面から影響を受けたのか、それとも両側面から影響を受けたのかを把握するためである。項目の設定に当たって参考にした資料は、福武教育研究所（現ベネッセ教育研究所）による調査「教員と生徒による評価のずれ」で設定されている9項目<sup>4)</sup>のうち、本学の教職科目受講者が高い評価を与えたもの<sup>5)</sup>を一部表現を変えて用いた。

## Ⅱ 調査の概要

### 1 調査対象者

平成14年度「教育制度概論」受講者（前期3講座、後期2講座）

「教育制度概論」は原則として学部2年次で履修することになっているが、履修者には学部3、4年次及び短大1、2年次の学生が含まれている。2年次の学生はほとんどが1年次に「教育基礎論」<sup>6)</sup>及び「教職概論」<sup>7)</sup>の履修を済ませているので、教育の基礎理論及び教職の意義について一応の概念を形成しているものと想定されるので適当と判断し、「教育制度概論」受講者を対象とした。

## 2 回答数

総数：293

表I アンケート提出者の内訳

学 期	曜 日 ・ 時 限	人 数	学 部 ・ 学 科 別				短 大
			学 部 2 年		学 部 3 ・ 4 年		
			英 米	ス ペ イ ン	英 米	ス ペ イ ン	
前 期	水 2	76	47	6	11	1	9
	水 5	67	43	9	8	0	7
	金 5	66	30	6	18	1	11
小 計		209	120	23	37	2	27
後 期	水 2	49	35	4	6	0	4
	金 5	35	19	3	3	0	10
小 計		84	54	7	9	0	14
総 計		293	174	30	46	2	41

\*アンケート提出者のうち、学期末に定期試験を受験しなかった者2人（前後期各1）、逆に定期試験受験者のうち、アンケートを提出しなかった者9人（前期3、後期6）である。

上に述べたとおり、「教育制度概論」受講者は2年次学生が中心となっているので、アンケート提出者中69.6%を占めている。3、4年次学生も16.4%を占めているが、これは2年次以降あるいは3年編入後に教職課程を履修する者も少なくないことを示している。

## 3 調査方法等

授業開始後約1ヶ月を経過した時期に、アンケート用紙を配布し、記入した上、2週間後に提出するよう協力を依頼した。

## IV 調査結果及び分析

先に述べたとおり、本調査の核心は設問V及びVIであり、筆者は設問VIの自由記述の中から具体的な教師像を浮かび上がらせることを主眼においているので、設問I～IVの回答の設問ごとの量的処理については一般的傾向を知ることができればよいと考えている。

## 1 設問ごとの回答結果

## (1) 設問Ⅰの回答

表Ⅱ 上の文に当てはまる先生はいたか

	人数	%
(1) ほとんどいなかった	25	8.5
(2) 何人かおられたが、一人だけにしぼるのは難しい	102	34.8
(3) ぴったり当てはまる先生がおられた	164	56.0
無 答	2	0.7
計	293	100.0

多くの者がよい教師と出会ったと感じている。「ほとんどいなかった」と答えた者の中にも、「少なかったが1人や2人はいた」と感じている者もあるように思われる。

\*設問Ⅱ～設問Ⅴについては設問Ⅰの(3)に回答した者だけに回答を求めたのであるが、(2)に回答した者のうち、40人は設問Ⅱ～Ⅴにも回答した。したがって、以後(3)の164人と併せて204人の数値を扱うものとする。このことは予想外であったが、「ぴったり当てはまる先生」2人以上にめぐりあったという者のようである。

## (2) 設問Ⅱの回答

表Ⅲ その先生の性別

	人数
男 性	104
女 性	75
無 答	25

次の設問Ⅲで学校種別を答えているが、中学校、高等学校の教師は男性の方が多いたことが影響していると思われる<sup>8)</sup>ので、この項の数値については、参考程度に考えたい。無答の25はいずれも設問Ⅰ－(2)の回答者で、複数の教師を思い描いているからであろうと思われる。

## (3) 設問Ⅲの回答

表Ⅳ その先生に教わった学校

	人数	延べ人数 (%)
小学校	25	小学校 26 (12.7)
小学校と中学校	1	
中学校	52	中学校 61 (29.9)
中学校と高校	8	高 校 98 (48.0)
高 校	90	
その他	10	その他 10
無 答	18	無 答 18
計	204	214

学校が2種類にわたっているのは、I - (2)の回答者で、複数教の教師を思い描いている場合と、私立の中高併設校の教師である場合とがある。右側の延べ人数の欄は、左側で複数校の校種をあげた者をそれぞれの校種に加えた数であり、(%)の数値は実回答人数204人のうち、その校種の教師をあげた者の比率である。また、「その他」では予備校や塾の教師、家庭教師をあげている。

(4) 設問Ⅳの回答

表Ⅴ その先生と自分との関係

	延べ人数	%
(1) 学級担任	90	44.1
(2) 教科担任	138	67.6
(3) クラブ顧問	33	16.2
(4) その他	11	5.4
計 (延べ数)	272	133.3

1人の教師が学級担任であるとともに教科担当である場合は両方に○をつけているので、延べ数で集計した。学級担任と教科担任の両方に○をつけた者は53人であった。なお、本学学生が英語科教員免許状取得を目指していることと関連していると思われるが、(2)の教科担任138人のうち、担当教科が英語と回答した者は77人の多くに及んでいる。また、小学校教師の場合は全教科担当であるから、教科担任には加えていない。

(5) 設問Ⅴの回答

表Ⅵ 先生を印象深く記憶している理由、大きな影響を受けたと思う理由

項目番号 (内容は略記)	A 表							B表 小計	C表 小計	A表+B表+C表	
	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	小計			総計 (%)	
(1)教科の知識が深い	7	3	1	4	5	0	20	2	4	26 (12.7)	
(2)よくわかる授業をした	10	1	19	8	6		51	3	5	59 (28.9)	
(3)生徒の面倒をよく見る		5	42	6	1		67	6	3	76 (37.3)	
(4)部活動の指導に熱心			5	9	4		25	6	2	33 (16.2)	
(5)人柄が温かく包容力がある				20	5		95	6	4	105 (51.5)	
(6)人間としての生き方を尊敬					0		48	8	5	61 (29.9)	
(7)その他							16	5	1	22 (10.8)	
合計 (延べ数)							322	36	24	382 (187.3)	

- \* A表 ○を2個つけた者 (161人) の項目の組み合わせと回答数 (小計は各項目の縦横の合計)
- \* B表 ○を1個つけた者 (36人) の回答数
- \* C表 ○を3個つけた者 (4人) と4個つけた者 (3人) の回答数

\* 「(7) その他」の記述を分析したところ、(2)～(6)のいずれかに分類可能な内容が多いように思われる。特に「(3) クラスや生徒個人の面倒をよく見てくれたから」にはほぼ当てはまる、きめ細かい指導ぶりについて述べた者が11人、「(2) よくわかる授業に興味を持てるようになったから」にはほぼ当てはまる、厳しいけれど熱意にあふれる授業ぶりについて述べた者が6人あった。「(5) 人

柄が温かく包容力がある」にほぼ当てはまる者は3人と少ないようにみえるが、二つ以上○をつけた者のうち、すでに(5)に○をつけていた者が9人あるからであろう。

\*総計欄の(%)は実回答人数204人のうち、その項目に○をつけた者の比率を示す。2個以上○をつけた者が165人あったので合計は187.3%となっている。

まず、(1)～(7)それぞれの項目別に総計欄の数値を見ると、第1位は「(5) 人柄が温かく包容力がある」の105人(51.6%)で他の項目よりもかなり多い。第2位以下は「(3) クラスや生徒の面倒をよく見てくれたから」の76人、「(6) 人間としての生き方を尊敬していたから」の61人、「(2) よくわかる授業で興味を持てるようになったから」の59人と小差で続き、残りの3項目に○をつけた者は少ない。

次にA表についてみると、○を2個つけた項目の組み合わせ21通りのうち、第1位は(3)(5)の組み合わせで42人であり、接する機会の最も多いクラス担任の人間性と専門性が融合して生徒に影響を与えているといえる。第2位は第1位の半数弱の(5)(6)で20人、第3位は小差で(3)(5)の19人であった。第4位以下はさらに半数以下の数値になっている。

設問Vは二つまで○をつけてもよいとしたが、その理由は設問の設定理由の項で述べたとおり、回答者が教師の二つの専門性(教科指導又は教科外指導)の側面と教師の人間性の側面のどれか一つから影響を受けたのか、それとも専門性と人間性の両側面から影響を受けたかを知るためである。

A表の、○を2個つけた項目の組み合わせ21通りを、全体的な傾向を把握しやすいように(1)(2)を教科指導の専門性、(3)(4)を教科外指導の専門性、(5)(6)を人間性の側面としてまとめると組み合わせが6通りでき、回答数の多い順に並べると次のようになる。なお「(7) その他」は内容が拡散しているので除外した。

表Ⅶ 表Ⅵ-A表における○二つの組み合わせ

順位	組み合わせの型	回答数
1	「(5)(6) 教師の人間性」と「(3)(4) 教科外指導の専門性」	62
2	「(5)(6) 教師の人間性」と「(1)(2) 教科指導の専門性」	36
3	「(5)(6) 教師の人間性」内の組み合わせ	20
4	「(3)(4) 教科外指導の専門性」と「(1)(2) 教科指導の専門性」	15
5	「(1)(2) 教科指導の専門性」内の組み合わせ	7
6	「(3)(4) 教科外指導の専門性」内の組み合わせ	5

表Ⅶで上位の三つの組み合わせはいずれも「(5)(6) 教師の人間性」を含んでいる。特に第1位の「(3)(4) 教科外指導の専門性」との組み合わせは62人と他を引き離している。生徒たちが教師の人間性から最も大きく影響を受けたと感じていることがわかる。また、それに次ぐ教科外指導の専門性では、クラス担任は教科指導以外の学校生活の各領域の指導に関して

第一責任者であるから、生徒との接触の度合いが最も多く、信頼関係が生まれやすい。また、部活動顧問からの影響をあげた者は数は多くないが、厳しい練習を通して培われた信頼関係は深いものがあるようである。

(6) 設問Ⅵの回答

設問Ⅵは全員が回答しているので、設問Ⅰの回答「(1) ほとんどいなかった」、(2) 何人かおられたが、一人だけにしぼるのは難しい」、(3) ぴったり当てはまる先生がおられた」別に集計した。さらに回答(2)のグループは、設問Ⅱ以降に回答していない者(2-a)と設問Ⅱ以降にも回答した者(2-b)とに分けて集計した。

表Ⅷ 教職課程履修についてその先生の影響

設問Ⅰの回答区分	(1)	(2-a)	(2-b)	(3)	計	%
(1) あると思う	5	34	33	121	193	65.9
(2) そう思わない	16	21	7	34	80	27.3
無 答	4	7	0	9	20	6.8
計	25	62	40	164	293	100.0

表Ⅷは全員の回答を集計したものである。設問Ⅰで「(1) ほとんどいなかった」、又は「(2) 何人かおられたが、一人だけにしぼるのは難しい」に○をつけ、設問Ⅱ～設問Ⅴに回答しなかった者を含んでいるので、「(2) そう思わない」及び「無答」が相当数あるが、65.9%の者が「(1) あると思う」に○をつけたのは、よい教師との出会いが自分の持っていた希望の実現を後押しする力になっていると考えられるだろう。

## 2 設問Ⅵの記述部分の分析

### (1) 記述部分の内容分類

前述のとおり、本調査の中心は設問Ⅴ及びⅥであるが、設問Ⅴでは○を二つつけさせたため、一般的な傾向は把握できたものの、具体的な教師像を浮かび上がらせるため、全員の回答を読み、いわゆる「主訴」に当たるものを明らかにすることにした。読み取りの方法は、回答者の記述内容のうち、設問Ⅴの「(1) 教科の知識が広く深かったから」～「(7) その他」のいずれかの項目に当てはまると思われる箇所を色分けして下線を引く方法をとった。その結果、いわゆる「主訴」に当たるものを明らかにするための分類基準を改めて設定する必要があると感じた。もっとも、設問Ⅵは「設問Ⅴで○をつけた項目を中心に、その理由を具体的に書いてください」としたので、設問Ⅴの集計結果と大きな食い違いはなかったが、回答者の記述内容に基づいて「主訴」を次の①～⑥で大まかに分類できることがわかった。そして、それぞれの類型に各行末尾に示した名称を付けることとした。

- ①主として教師の教科指導などの力量から影響を受けた者＝専門性影響型
- ②主として教師の人柄や生き方などから影響を受けた者＝人間性影響型
- ③上の①、②について同程度影響を受けた者＝総合的影響型
- ④よい教師との出会いによって楽しい学校生活を送れたので、自分が教師としてそれを再現したいとする者＝出会い型
- ⑤自分の希望（資格を取得したい、人を教える職に就きたいなど）による者＝希望重視型

なお、④の出会い型は①～③の専門性影響型・人間性影響型・総合的影響型と似ているようだが、具体的にどのような影響を受けたかを明確に述べておらず、「その先生との出会いそのもので運命づけられた」という感じを抱いているように思えたので、独立した項目とした。なお、「親が教師である」ことを理由に挙げている者も「教師である親との運命的出会い」をしたと考えられるのでこの項に含めた。また、④の出会い型には、よい教師との出会いがなかったために、自分はあんな教師にはなりたくないという「反面教師型」が含まれており、この二つは、内教として表した。

なお、表Ⅶで「(1) あると思う」と答えた者はほとんどが①～③の専門性影響型・人間性影響型・総合的影響型に、「(2) そう思わない」と答えた者はほとんどが⑤の希望重視型に分類された。④の出会い型は「(1) あると思う」と「(2) そう思わない」が混在している。また、設問Ⅴと設問Ⅵの結果に多少の食い違いが生じたのは、設問Ⅴのあらかじめ設定された項目に○をつける、いわば与えられた課題と、設問Ⅵの自分の思いを表現する課題との差違がもたらしたものと思われる。

表Ⅹ 記述に基づく分類

設問Ⅰの回答区分	(1)	(2-a)	(2-b)	(3)	計	%
①専門性影響型	1	6	9	37	53	18.2
②人間性影響型	3	11	15	65	94	32.3
③総合的影響型	4	7	4	11	26	8.9
④出会い型	5	16	3	21	45	15.5
内 親教師型	(3)	(9)	(3)	(8)	(23)	(7.9)
教 反面教師型	(2)	(4)	(0)	(0)	(6)	(2.1)
⑤希望重視型	12	22	8	30	72	24.7
無 答	0	0	1	0	1	0.4
計	25	62	40	164	291	100.0

## (2) 記述の具体的内容

ここで表Ⅹの①～⑤の分類に従って、回答者の記述を紙幅の許す範囲でいくつか引用し、そ

それぞれの類型の典型と思われるものを明らかにし、教師のどのような指導あるいは態度や人柄などが回答者である生徒に深い印象を与えたのかを検討してみたい。なお、回答者の文章には文字や文法上の誤りが多く見られるが、原文のニュアンスを伝えるため訂正や補足は最小限にとどめた。

### ①専門性影響型

当然のことであるが、この型では教科の授業を通して深い印象を受けた者がほとんどである。印象の中身を大別すると、(ア) 教師の専門的知識やその背後にある経験の深さ、(イ) 授業方法や教材の工夫、(ウ) 授業のわかりやすさや興味のもたせ方、(エ) 個々の生徒に対する親身の指導、が主なものである。中学校、高校の教師では英語担当教師をあげた者がほとんどで、その教師の授業を通して生徒自身が英語への興味を深め、学力を伸ばし、ひいては大学で語学を専攻することにつながったと感じているように思われる。また、クラブ顧問の教師や小学校の教師をあげている者は、いずれも教師の「熱心な指導」に深い印象をもっているように思われる。ここで上記(ア)～(エ)のタイプごとに、具体的記述をいくつか引用する。やはり英語教師に関するものが多い。以下引用文は「 」内に示すこととする。

#### (ア) 教師の専門的知識やその背後にある経験の深さについて述べた者

「その先生により英語の概念のようなものを学び、構文や熟語などをただ覚えるのではなく理解しながら覚えることができるようになり、…」、「一つの単語から派生語や反対語、同意語を広く教えてくださって、とても有意義だった。」、「大変幅広い雑学があって、それを授業に生かしておられて、…」、「アメリカ文化について教えてくれたり、社会の仕組み等を教えてくれたりした。」、「いつも興味深い話をしてくれて、文法等の生徒がつまづきそうなところをしっかりと学習させてくれてとてもわかりやすく、…」、「英語を教えてくれるだけでなく、世界を視野に入れて物事を考える知識豊富な先生だった。」などである。

#### (イ) 授業方法や教材の工夫について述べた者

「…、先生自作のキャラクターをプリントや黒板に登場させて、注意点やポイントをわかりやすくしていました。また、自学自習ノートというものを作らせました。」、「教科書以外の英語のゲームをしたりして、楽しい授業にしてくれた。」、「マンガや流行している音楽など、生徒が今興味を持っているものを例や説明に使うなど、生徒の目線に合わせた授業をして下さったり、…」、「授業以外にも国際交流みたいな体験をさせてくれました。」、「私たちの生活の中にある物事を使って英語の文法を教えてくれたのでとても興味がわいた。」などである。

#### (ウ) 授業のわかりやすさや興味のもたせ方について述べた者

これについては多くの者が述べているが、授業のわかりやすさを示すような、あるいは興味を持たせるような指導場面の記述は少なかった。「先生の授業では(答えの)間違い

を恐れることはありませんでした。」「私がちゃんと理解できるまで何回も教えてくれたし、…」、「スピーチ指導の際、技術的な指導だけでなく、(自信を持たせるような)精神的サポートにも気を遣ってくださった。」などがあげられる。

(エ) 個々の生徒に対する親身の指導について述べた者

「中学の2年間で、私の才能を引き出してくれました。個人的に特訓して英語暗唱大会にも出場させてくれました。」「スピーチコンテストの代表に選んでくださいました。そして、発音を中心に、今まで習わなかった英語の分野を教えていただきました。」「放課後でも、根気よく相手をしてくださり、時には日をおいて、探してきた資料とともにみんなに教えてくれたりしました。」などである。なお、小学校教師をあげた者は教師の熱心な指導に深い印象を受けたことを述べている。「…、勉強のできない子たちに対して熱心に取り組んでいました。」「よくクラス会を開き、帰りが多少遅くなるうとも問題解決のために話し合いをするよう時間をさいてくださいました。」「体当たり(するような熱意)で児童に向き合い、…それを学級全員に伝わる姿勢で私たちにさまざまなことを真剣に訴え、伝え続けた先生でした。」などである。小学生の年齢では、まだ教師の専門的知識や指導法を観察したり、感得したりする能力はそれほど高くないから、指導の熱心さが強い印象を与えるものと思われる。

②人間性影響型

いずれも教師との間に好ましい人間関係を結ぶことができた者といえる。生徒との関係は接触する機会の多い学級担任(高校ではホームルーム担任)、教科担任(中学、高校)及び部活動顧問のいずれか、又はこれらの関係が二つ以上重複している場合がほとんどを占めている。これらは教科外指導などの専門性と教師の人間性が深く結びついて影響を与えていると考えられるが、記述の中で二つを区分することは困難である。教師にとっては担当する生徒は多数であるが、生徒側から見れば、多くの生徒の中から自分の長所や個性を見いだしてくれたことが、教師との人間関係を深め、信頼感を抱ききっかけになったと思われる。信頼感を抱いた理由を大別すると、次の三つが主なものである。すなわち、(ア)教師の人柄や生き方に尊敬の念をもった、(イ)生徒に対する受容的態度や気配りに心を開くことができた、(ウ)生徒の悩みや相談に真摯に対応してくれた、である。なお、二つ以上の項目にまたがっている場合も多いので、主訴と思われる内容を目安に分類することとした。その際、生徒との関係が、学級担任、教科担任、部活動顧問のいずれかによって、信頼感を抱いた理由が異なる場合も見受けられるので、そのあたりにも留意しながら引用したい。

(ア) 教師の人柄や生き方に尊敬の念をもった者

中学、高校時代に出会った教師に対するものが多いが、これは生徒の自我の目覚めによって教師を一人の人間としてみるができるようになったことがその根底にあると思わ

れる。「私は人間としての生き方に影響を受けたと思います。その理由は、常に前向きな姿勢で生徒と向かい合い、コミュニケーションをとりながら先生自身も学んで、何に対しても謙虚さがあったこと、…いろいろなことにチャレンジして、喜怒哀楽を感じる人生の方が人間としてすごく成長することができるという考えをもって、…」、「自己紹介の時に『人を嫌うことが嫌いだ』とおっしゃっていました。それを聞いて先生とたくさん話をするようになりましたが、個人的に話をしてくれる時は先生の愛情をととても感じました。」「クラス担任ということで家庭訪問や進路相談、学校行事などで先生とかかわる機会が多くなり、…その中で先生の包容力や人間としての熱を感じました。ボクは先生の人間性に惹かれました。」などである。小学校時代の学級担任について述べた者は多くないが、「すごく優しく笑顔がとってもすてきで…、授業も楽しかった。」「彼女はいつも元気な声で活発で、生徒の人気者でした。」など、優しい人柄をあげており、中学、高校教師に対するものとは多少趣を異にしている。

(イ) 生徒に対する受容的態度や気配りに心を開くことができた者

ここに分類される回答が最も多かった。このうち、小学校時代の学級担任をあげた者は、「大人よりも子どもの目線で物事を見ることができて、より人間味のある人でした。」「何よりも、僕たち子ども側の目線で考えてくれたことです。」という教師の目線について述べている者、「生徒一人一人を本当に大事に思ってくれていたと思います。」「生徒一人一人と話し合う時間をもち、愛情を注いでくれました。」「一人一人の可能性を伸ばそうとしてくれました。」など個々の生徒に対するきめ細かい指導について述べている者が代表的なものである。

中学・高校時代の教師をあげた者では、「とにかくクラスや生徒個人の面倒を暖かい包容力で見てくれた。…きちんと自分の考えをもっているが、生徒の意見もしっかり聞いてくれて、間違った時は厳しく叱ってくれる。」「私やみんなを信じてくれて、最後まで見放さずにいてくれました。生徒一人一人のいいところと悪いところを全て把握してくれていて、いつも個人を認めて接してくれていました。」「最初のころは、かなりうざいと思っていたが、学年が上がって行くにつれて、これは生徒を思ってやってくれているのかと思うようになってきた。」など生徒への心配りを感じとった者、「女子クラスだったこともあり、女性の生き方や人生に必要なものを授業の合間によく話して下さいました。」「学校は勉強を教えてもらうだけではなく、人生をどう生きるかを学ぶ場所でもあるということを教えてくれました。」など人生の先達としての示唆や助言からさまざまなことを学んだ者などがある。

部活動の顧問の先生をあげた者も少なくない。部活動においては技量を向上させ試合に勝つという目標に到達するために厳しい指導が行われるのが一般的であるが、部活動以外

にさまざまなことを教わり学びとったことを述べている者が多い。「顧問の先生の家にお世話になってました。私はこのような高校生活の中で、目上の人へのマナーや人への思いやり、集団生活、対人関係そして責任感を学び身につけました。」「その先生は部活動だけでなく、あいさつや生活面の方でも大変厳しかった。今、自分に常識的なことや礼儀が身に付いているのはその先生のおかげだと思っている。」などである。

(ウ) 生徒の悩みや相談に真摯に対応してくれたと感じた者

さまざまな悩みについての相談や進路相談など、教師との個人的な接触から得た信頼感が多いように思われる。「高校生の時に教わった先生がとてもやさしくて、どんなことでも相談に乗ってくれて、一緒に喜んでくれたり、悲しんでくれたりして、…良き私たちの理解者でした。」「高3の時、精神的にまいっていた時期があったんですが、…先生は私の変化に気付き、話しかけてくれ、…話を聞き相談に乗ってくれました。」「…行事では常に私たちと楽しみ、喜び、苦しみなどを共感し合い、悩み事を相談に行くとな納得がいくまで相談に乗ってくれました。見せかけではなく、真剣に私たちを叱り、真剣に全てを受けとめてくれました。」などであるが、特に進路をめぐる相談は自分の将来と深く関わるものであり、また、先達としての教師の力量が発揮される場面が多く、深い印象を与えたものと思われる。「自分の夢がなかなか決まらず悩んでいた私と長時間話をしてくれ、私のやりたいことを自然に引き出してくれました。この力は本当にこの先生ならではと思いました。」「私が3年になってからも進路についてよく相談にのってくれた。教師という仕事の良さやつらい事などを語ってくれ、人に教えることを職業とすることの素晴らしさを教えてくれた。」「私は総合大学の英文科にするか外国語大学にするか悩んでいました。…しかし他の先生と違ったのは私の夢を詳しく調べてくれ、どちらがいいかだけでなく、どこの大学がよいかまで自ら調べてくれたのです。」などである。

この型は人間性影響型と名付けたが、ここに出てくる教師が人格的に特に優れ、高い使命感や教育愛をもっていると即断することはできない。引用箇所以外で回答者が述べているところには、見方によってはかなり癖のある人物のように思われる場合もあり、また、長年の教職経験によって、生徒の学校生活に対する細かな気配りなども身につくからで、これらは専門性と人間性が融合したものと考えられる。

③総合的影響型

これまで述べてきた①②の両型にまたがるものであり、特に目新しいものがあるわけではない。しかし、生徒に広範な影響を与えることができた背後には、教師の優れた力量があることは確かであろう。「高校時代の英語の先生の授業は、わからない生徒に合わせた授業で、基本的なことから指導していただき、…ノートをまとめるのが楽しいくらいでした。また、とても面倒見のよい優しい先生で、個人面接などの際には、一人40分は当然のようにじっくり話し合

ってくださいました。」「その先生の国語の専門的知識は広く深かった。生徒に興味を持たせるような授業であった。…僕も将来このような授業をしたいと思った。次にその先生はクラス全体や生徒個人の面倒もよく見てくれました。ときには生徒の立場に立って、ときには客観的に物事を判断してくれました。」「中学の社会の先生はとても知識のある方でいろいろな話を聞かせてもらいました。そして授業に関するだけでなく、私たち生徒がよりよい大人になるための道しるべになるような方だったので、皆から慕われていました。」などである。

#### ④出会い型

この型で最も特徴的なものは、内教で示した親教師型であり、全体の約半数を占めている。これは運命的な出会いといわざるを得ないし、環境影響型と名付けてもよいように思われる。回答の特徴は教師あるいは教職を一般の生徒とは異なった視点で見ていることであり、独自の動機付けになっているように思われる。「私の両親は高校教員で、…苦しい立場にある生徒や問題行動（自殺未遂や家出など）をおこす生徒に対して、学校内外にかかわらず、積極的・直接的に関わり、問題解決に努力している姿を幼い頃から見てきたこと…。」「ここ数年、母親の勤める中学校では、暴力事件が起こって母親の精神状態はボロボロだ。しかし、慕ってくる生徒も多く、卒業生もよく家に遊びに来ていた。そのような両親の仕事を私もやってみたいと思うのは自然なことだろう。」「母の子ども一人一人に対するケアは私が今まで受けてきたどの先生よりも熱心なものでした。母は教師という仕事に責任感を持ち、自ら日々新しい仕事に挑み、日々進歩するように努めています。」などである。また、数は少ないが、教わった教師の指導方法や人柄などに対する不満や批判をあげている者もある。反面教師型と名付けたものである。「むしろ私は先生の悪いところに影響を受けた部分の方が大きいと思う。具体的に言うと、自分だったらこうするのにとか、こう教えるのに！と常に思っていた記憶がある。…私はそういった点を考えてやりたいと思っている。」「…生徒側に非がある時なのですが、その際に私は『もっとやわらかく生徒に当たることはできないのだろうか』と思っていました。…先生の考え方に対して反対的な考えを持っていたということですが、そのことが理想の教師に対する私のあこがれを生んだのだと思います。」などである。その他の回答は先に述べたとおり、教師の人柄などについて書いてはいるが、どのような影響を受けたかが明確でないので②に分類することができなかったものである。表現の拙さが原因かもしれず、引用できるほどのものはない。

#### ⑤希望重視型

教師からの影響というより自分自身の希望により教職課程を履修していると述べた者であるが、全体の約四分の一を占める数がある。動機の中身をみると、下記のように四つに大別することができる。(ア) 資格の取得を目指す者で、これには教員免許のほか、日本語教員、司書教諭の資格取得を希望する者が含まれる。(イ) 教育というものを深く知りたいという関心か

ら教職課程を履修している者、(ウ) 教職に就くことが憧れでその実現を目指している者で、先生になることが小さい頃からの夢であるから、学校が大好きであるから、子どもたちにスポーツの指導をしたいからなどの理由をあげている。(エ)「教える」という仕事に就きたいからと述べている者で、最も数が多く、その理由として、教えることが好きだから、成長する子どもの支えになりたいから、英語を教える仕事に就きたいからなどをあげている。四つに大別した動機ごとに回答を引用する。

(ア) 資格取得を目指す者

「…教員をやるかどうかは今迷っているところです。でも、免許さえ持っていれば、なるならなにしろ、将来役に立つ日が来ると思って履修することにしました。」「短大1年の春休みカナダに留学して…、友人たちに簡単な日本語、日本文化、風習、食べ物など色々教えました。そんなのち、人にものを教える楽しさを知り、自分の大好きな国カナダで日本語教師として働きたいと思うようになったのです。」などである。

(イ) 教育を知ることに関心がある者

「…、現在の学校教育のしくみを少しでも理解しようと思ったことです。私は、教職につくつかないの如何にかかわらず、日本の教育の制度やこれからの方針を知ることで、…自分の考えを深めようと思いました。」「(それぞれの) 国の経済状態等が教育にも大きく影響しており、それぞれがどう働くのかを知りたい。まず日本の教育について学びたくて教職課程を履修した…」などである。

(ウ) 教師になるという憧れの実現を目指す者

「そんな楽しい3年間を作ってくれた母校にぜひ教員としてまた戻りたいという念が大きくなりました。なので必ず免許を取得して母校に帰りたいです。」「…、自分がしてもらったように、楽しい授業や会話をし、みんなに学校に来てほしいと思ったからです。学校は大人と子どもがふれあえる楽しい所ですから。」などである。

(エ) 教えるという仕事に就きたい者

「私はよく先生に質問しにいき、自分がよく理解したことを友達にも教えていました。その方が自分にとってもいい復習になり、理解が深まるからです。そのときに友達が先生よりもわかりやすいと言ってくれたことが嬉しくて…」。「中学生の頃、先生が教えてくれた内容を私がすぐ理解できたという、とても単純なことだけど、その時は人に何かを教えて理解してもらっているのはすごいことだなあと思い、人に教えるような職業につきたいと考えました。」など教えることに興味関心をもった者、「…私を見捨てずにしっかり指導してもらったため、勉強に対する姿勢も変わり成績も伸びたので、私のように勉強があまり好きでなく成績が伸びない子の力になってあげられるようになりたいと思ったからです。」「私が先生に支えてもらったように、私もいち早く生徒の様子の変化を察知して、

心のもよもよを取り除いてあげられるような立派な先生になりたいと思っている。」など、子どもを支えていこうという気持ちを持つ者、「外国語を学ぶことで自分の世界観が広がるということを教えたいと思ったからだ。高校1年のときに市が企画した英語劇に参加したことがきっかけだったと思う。」「先生といっても外国の幼稚園の先生やインターナショナルスクールの幼児部の先生になろうと思ったからです。」などさまざまな形で英語を教える仕事に就きたいと考えている者などである。

## 終わりに

本調査は毎年「教職概論」の授業において、注5)に示したように受講者に課題として考えさせている内容を発展させたものである。読み取りや分析の困難さは予想したが、設問Ⅵにおいて記述式回答を求めたので、教師の資質能力や生徒への影響について、「2の(2)記述の具体的内容」において引用したとおり、生徒から見た教師像について把握することができた。記述には教師との関係を客観的に、かつ教育的人間関係のポイントをうまく捉えたものが多かったが、教職課程の履修を通して、受講者の教職観の形成が進みつつあると感じている。この調査結果から得られた知見は、特に「教職概論」の授業において、教職観について考察するための手がかりとして活用できるだろう。教職課程では3年次以降に、教科指導に係る「英語科教育法」や「外国語教育実践」、教科外指導に係る「生徒指導論」や「教科外活動論」など教育指導に関係が深い科目を履修し、最後に「教育実習」において指導の実際を体験する。特に「教育課程及び指導法に関する科目」<sup>9)</sup>の履修により、受講者の教職観の形成がさらに進み、教科指導の専門性に関する理解が深まるものと思われる。将来、例えば「あなたは教職課程を履修する前と免許を取得した現在とで、小、中、高校で教わった先生に対する見方が変化したと思いますか。もし変わったとすればそれはどのような点ですか。」という問いを發し、それに回答を求めれば、現時点と比較するのに役立つ資料を得られると考えている。

## 注

- 1) 本科目は教育職員免許法施行規則第6条の表第3欄「教育の基礎理論に関する科目」のうち「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に係る科目として設置されており、本学では原則として学部2年次学生、短大部1年次学生が履修(2単位・半期)するよう定められている。
- 2) 関西外国語大学『研究論集』No.69(P.483~496)「本学学生の教職に関する意識について」及びNo.71(P.363~373)「本学学生の教職に関する意識について(続)」
- 3) このアンケートの様式は本報告の末尾に資料として掲載した。

- 4) この調査は教員の力量とその評価を知るため、教員の特性に関する9項目について、中学校教員と中学生に回答を求め、教師の考える「よい教師像」と中学生の考えるそれとのずれを知ろうとするものである。特性として9項目あげられている。これら各項目について6段階（生徒には5段階）の選択肢（とてもそう思われている～とてもそう思われていない、など）が設定され、いずれかを選ぶようになっている。9項目の特性は注5）に示した。
- 5) この調査結果を筆者が担当する「教職概論」で教材（参考資料）として利用しているが、毎年受講者に、自分が教師になった場合、生徒からどのように見られる教師でありたいかを考えさせるため、この9項目を自分が重要だと考える順（1位～9位）に並べさせ、また、そのように考える理由を書かせている。平成14年度の受講者（回答数428）が第1位に選んだ項目は次の通りである。

	人数	(%)
熱心に授業をしてくれる先生	122	(28.5)
専門的な知識のしっかりした先生	23	(5.4)
教え方がうまい先生	74	(17.3)
クラブの指導に熱心な先生	8	(1.8)
教養の豊かな先生	13	(3.0)
教育についての信念のある先生	18	(4.2)
個人的な悩みの相談に乗る先生	29	(6.8)
ユーモアのある先生	11	(2.6)
人間として尊敬できる先生	130	(30.4)

- 6) 本科目は注1) で述べた表第3欄「教育の基礎理論に関する科目」のうち「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」に係る科目として設置されている。
- 7) 本科目は注1) で述べた表第2欄「教職の意義等に関する科目」のうち「教職の意義及び教員の役割並びに「教員の職務内容（研修、サービス、及び身分保障等を含む）」に係る科目として設置されている。
- 8) 文部科学省の2003年度学校基本調査によると、「全国の国公私立小・中・高校本務教員のうち女子教員の占める比率は、小学校は62.7%、中学校は40.9%、高等学校は27.1%となり、いずれも過去最高だった前年度を更新した。」とある。（『内外教育』2003年9月19日第5419号P.8～10による）
- 9) 「英語科教育法」、「外国語教育実践」、「教科外活動論」、「道德教育の研究」（2年次履修）を指す。

資料 アンケートの様式 (B4判用紙横置きで左半分に設問Ⅰ～Ⅴ、右半分に設問Ⅵを配置)

**私の教わった先生**  
 -平成14年度「教育制度概論」履修者アンケート-

授業曜日時	学 科	学年	クラス	学 籍 番 号	氏 名
(○で囲む) 水2・木5・金5	(○で囲む) 英米・スペイン・短大				

このアンケートは教職課程履修者の受講動機を知るためのものです。協力してください。  
 あなたが小学校、中学校、高等学校で教わった多くの先生のうち、「もっとも印象深く記憶に残っている先生」あるいは「最も強く影響を受けたと思う先生」を一人あげてください。そして、その先生について、次のⅠ～Ⅵの問いに答えてください。  
 (各問の当てはまる番号や項目を○で囲み、また、カッコの中に必要事項を記入してください。)

Ⅰ 上の文に当てはまる先生は、

(1) ほとんどいなかった  
 (2) 何人かおられたが、一人だけにしぼるのは難しい  
 (3) ぴったり当てはまる先生がおられた

→問Ⅵへ進んでください。  
 →問Ⅱへ進んでください。

Ⅱ その先生に性別に○をつけてください。 (男・女)

Ⅲ その先生に教わった学校に○をつけてください。 (小学校・中学校・高等学校)

Ⅳ その先生とあなたの関係は次のうちどれですか。当てはまる項目の番号を○で囲んでください。また、( )の中の項目で当てはまるものを○で囲んでください。(囲むのは2つ以上でも可)

(1) 学級担任だった …… 担当学年は ( 1年・2年・3年・4年・5年・6年 )

(2) 教科担任だった …… 担当教科は

国語・社会(公民・地理) 数学  
 理科(物理・化学・生物・地学)・英語  
 保健体育・技術家庭・音楽・美術・書道  
 その他( )

(3) クラブ・部活動の顧問だった…クラブ名は( ) 部)

(4) その他 …… 具体的に書いてください ( )

Ⅴ その先生を印象深く記憶している理由、あるいは、大きな影響を受けたと思う理由は、次のうちどれですか。当てはまる項目の番号を○で囲んでください。(囲むのは2つまで可)

(1) 教科の知識が広く深かったから  
 (2) よくわかる授業で、その教科に興味を持てるようになったから  
 (3) クラスや生徒個人の面倒をよく見てくれたから  
 (4) クラブ・部活動の指導を熱心してくれたから  
 (5) 人柄が温かく包容力があつたから  
 (6) 人間としての生き方を尊敬していたから  
 (7) その他 …… 具体的に書いてください ( )

